



# 「いじめ・不登校対策の推進」の取組事例（2学期）

大分県教育庁日田教育事務所

管内各小・中学校において、いじめ・不登校の「未然防止」に向けた短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の推進、SC・SSW等の専門スタッフが参加した校内対策委員会の定期的開催等、学校の組織的な取組が進められています。そこで、「2学期取組状況調査」から「成果が表れている」と報告された取組事例を以下に紹介します。自校のいじめ・不登校対策の推進に向けた参考資料としてご活用ください。

## ◎短時間で継続的に行う「人間関係づくりプログラム」の効果的活用例

学校	大山小学校	いつま小学校	前津江中学校
取組	「アドジャン」 	なかよしタイム<1・6年> 	「すごろくトーク」写真左上 「はあとというゲーム」写真右下 
成果	「今まで話をしたことがなかった人と話ができうれしかった」などのふり返りが多く見られた。	人間関係づくりプログラムを異学年で取り組むなどし、日ごろあまり接触しない人間関係の深化を図ることができた。	人間関係プログラムの実施により、関係をより深めたり、自信をもって自分を表現したりすることにつながった。

学校	東有田中学校	戸山中学校	このえ緑陽中学校
取組	地域体験講座 SGE「しめ縄づくり」 	全校でのコミュニケーションタイム 	※ピア・サポーターによる人権集会 
成果	構成的グループエンカウンターを取り入れ、友達と協力しながら実施。「言葉遣いや表情などを生かして人との関係づくりができた」と回答する生徒が92%。	学級ごとだけでなく、2学期は全校でも実施。縦割りの団活動に人間関係プログラムを追加した。「学校が楽しい」の「とても」の割合が1.2倍になった。	人間関係づくりプログラムの一環として緑陽中認定ピア・サポーターを養成した。「誰とでも仲良くできた(悪口・かげ口・無視をしない)」と肯定的に回答する生徒が91.4%

※ピア・サポーター…ピア(仲間)をサポート(支える)活動をする人のこと。具体的には、仲間の悩みを聴いたり、相談にのったりする。このえ緑陽中では、全校生徒に呼びかけると9名が希望し、5時間の講習を受け、認定された。

## ◎ SC・SSW等の専門スタッフを活用したいじめ・不登校未然防止取組事例

- OSC や SSW 等の専門スタッフが「校内対策委員会」に出席することで、不登校傾向の生徒や不登校生、その保護者の思いを知ったうえで、組織的に支援策を考えることができています。
- OSC、「心の相談員」と連携し、不登校児童への支援を行った。不登校から学校へ復帰できた児童もいる。不登校を継続している児童も前向きになりつつある。
- OSSWと毎週1回以上学校と連携した取組をすすめたことにより、不登校傾向だった児童が登校に向けての道筋をつけ、少しずつであるが登校できるようになった。
- OSSWの支援を受け、安心安全な生活に結びついた児童や、SCとのカウンセリングを受けたことで診療内科での専門的な診察につながり、今後の見通しを持つことができた家庭がある。